

情報の探索

論文の執筆においては、情報源が大変重要です。研究に必要な知識のみならず、先行研究や関連研究を調べることも、論文作成に不可欠な情報収集プロセスとなります。

1. 情報を見つける

まずは情報を見つけなければなりません。既存の情報の主な所在は図書館とインターネットという事になります。

A. 図書館

分野ごとに文献がまとめられており、関連する分野の情報をまとめて探す事ができます。また、大学の図書館ならば、過去に大学から出ている論文が参照できるシステムが整っている事が多く、学術的な信頼性が保証された情報にアクセスできます。欠点は情報が古いものである可能性がある点や、書籍という形態上扱える情報量に限りがある点などです。

B. インターネット

情報が時々刻々更新されているため、最新の情報にアクセス可能です。また手軽に閲覧でき、範囲も広いため、多くの情報を集める事ができます。ただし、情報の信ぴょう性については十分な吟味が必須です。

その意味で、信頼できる論文を電子的に集めたデータベースは大変有用です。以下に、それらのデータベースの例を挙げておきます。

「CiNii」 <http://ci.nii.ac.jp/>

「Web of Scinence」 <http://ip-science.thomsonreuters.jp/products/wos/>

またこれらを初めとする各種データベースは、京都大学図書館機構の HP からアクセスできます。

一方、自ら調査・実験して、これらに該当するデータや情報を集める場合も当然あり得ます。この場合も、信頼性を保つ事が大切です。

2. 情報を吟味する

論文のような学術的文章では、目についた情報を闇雲に羅列しても意味がありません。内容が信頼できるものである事が保証されて初めて、情報としての役割を果たすのです。

A. 著者

情報のソースというのは、簡便に信頼性を見積もる手段として有効です。具体的には学位・肩書きを持った専門家や、公的機関の発表した情報であれば、信頼性が高そうに思われます。

B. 発表時期

やはりあまりに古い情報では、考察の材料としての使用に堪えません。研究内容にも左右されますが、最新の情報に基づいて研究を行って下さい。

C. 内容

誤字脱字がないか、その情報を作成するための情報の出典や参考文献が明記されているかといった事項がチェックポイントです。

また自分で情報を集める場合には、収集の条件を論文中で明示する必要があります。例えば実験であれば室温や大気圧、アンケート調査であれば回答者がどんな人であるか、何人に質問したのかといった事は、再現性を確保し、情報の信頼性を保証する上で重要です。